

2013 **1**

18号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

まつもと医療センター

中信松本病院
松本病院

- ◆院長就任のご挨拶.....2
- ◆第3回まつもと医療センター登録医大会・新病棟建設の進捗状況.....3
- ◆第66回国立病院総合医学会病院祭.....6
- ◆耳鼻咽喉科 最近の診療トピックス.....9
- ◆降旗ハートクリニック紹介.....10
- ◆第34回心筋生検研究会・車座健康講座.....11
- ◆メンタヘルス講演会・クリスマス会.....12
- ◆医療安全推進月間の取り組み.....13
- ◆解剖慰霊祭ご報告・お知らせ.....14

Matsumoto Medical Center

院長就任のご挨拶



院長 吉野 喜
よし きた 北

新年明けましておめでとうございます。

この度1月1日付けをもちまして国立病院機構まつもと医療センター院長を拝命いたしました。まつもと医療センターのさらなる発展のため誠心誠意、全力を尽くして取り組んでいく所存です。さらなるご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

まつもと医療センターは平成20年4月に松本病院と中信松本病院が一組織化して誕生いたしました。米山威久前院長の努力により念願であった一体化整備が前進し、現在病棟建設予定地は更地となり、建物の実施設計をおこなっているところです。平成27年には、美しくクリーンな病棟がオープンする予定で準備が進んでおります。建物や医療機器のハード面の充実のみならず、安心で安全な質の高い医療の提供ができるようソフト面も充実させ、松本から塩尻地域の医療の発展に貢

献したいと思っております。

まつもと医療センターの発展の礎として安定した経営を継続的に行っていくことは、最も重要と考えております。現在、新病棟整備が進行しておりますが、次のステップとして新外来棟整備があり、その完成をもって一つのまつもと医療センターの姿・形が出来上がります。私たちはこれまで辿り着かねばなりません。また、職員モチベーションを高めるための教育・研修や職員間の交流を図るための行事にも積極的に取り組み、働きがいのある職場環境を整えたいと思っております。職員の「和」を築き、働きやすく、働きがいのある環境を整えていきたいと思っております。

さらに、少子高齢化など急速に変貌する日本の医療・福祉環境の中で今まで以上に加速度的に進化・発展するために時代に先駆けた取り組みをこの地域で行っていきたいと思っております。「治す医療」から「支える医療」まで、言い換えますと、急性期医療、がん医療、各種専門医療、難病・障がい者医療をバランスよく行っていきたいと思っております。そして私たちの取り組みが、国立病院機構の、延いては日本の医療の発展に一石投じられればとも考えております。末尾になりましたが、皆様様にとって良い年になりますよう祈念申し上げます。

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基本方針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
3. 患者さんの思いを大切に、敬意と思いやりの心で接します
4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
5. 教育研修の充実を図り、職員の能力向上と人材育成に努めます
6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
7. 明るく健全な病院経営を行います

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
3. 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
8. 健康教育を受ける権利
9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利

第3回まつもと医療センター登録医大会開催



第3回のまつもと医療センターの登録医大会が、さる11月28日に松本市内で、登録医の先生方、当センターの医師や部門長など約100名が参加して開催されました。前半はセンターの診療内容の紹介で、今回は2題の講演が行われました。消化器内科の宮林秀晴部長は、胃潰瘍と潰瘍性大腸炎の各診療ガイドラインに基づく治療の動向と最新の治療成績について、整形外科の若林真司医長は、変性性関節症の保存的治療と人工関節など外科的治療の現況と過去5年間の成績について講演しました。引き続き行われた情報交換会では、高島松本市医師会長、鳥羽塩筑医師会長の両先生にスピーチを頂いたあと、北原正志小児科医長（中信松本病院医局長）の司会で、各科の診療紹介がス

ライドを用いて行われました。熱心な発表が続いて、時間制限オーバーに進行係が苦慮する場面もありましたが、盛会のうちに終了しました。患者紹介・逆紹介や共同診療の推進など、登録医との密接な協力体制を通じて地域に根ざした医療の推進を目的として運用を開始した登録医制度も4年目に入りました。現在、登録医師数は287人に達しています。新病棟の建設の準備が着々と進むなか、登録医制度を活用しての地域医療連携は、ますます重要さを増しております。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

副院長
地域医療連携室長
大原 慎司
おおはら しのじ

新病棟建設の進捗状況

2012年10月号で新病棟建設に向けた取組みを紹介しましたが、新年号では、その後の進捗状況についてお知らせします。

まず、新病棟の設計関係ですが、若干遅れながらも昨年11月までに各部門とのヒアリングを行い12月に基本設計を概ね完成し、新年からは実施設計に取りかかる予定です。



本館より建設予定地を望む

一方、準備工事も電気、ガス等ライフラインの切りまわしと建設予定地の解体を12月までに終了しています。掲載した写真は、本館から敷地北東部の建設予定地を写したのですが、4階建の宿舎2棟の手前にあった看護師宿舎と旧看護学生宿舎が解体され、きれいに整地されました。

今後とも時々報告いたします。

事務部長
平田 真教
ひらた まさのり

第3回まつもと医療センター登録医大会 講演要約

消化器疾患のガイドラインと 当院での診療



消化器科部長
みやばやし ひではる
宮林 秀晴

現在の診療の指標として①EBM (evidence based medicine) ②エビデンス ③診療ガイドラインがあり、①EBMは最良の研究によるエビデンス・医療者の専門性・熟練、そして患者の価値観の3要素を統合し、より良い患者ケアのための意志決定を行うもの、②エビデンスとは「EBM」の大切な要素のひとつであり、ランダム化比較試験から症例報告まで研究から得られた結果です。これに対して③診療ガイドライン (Medical guideline) とは医療現場において適切な診断と治療を補助することを目的として、病気の予防・診断・治療・予後予測など診療の根拠や手順についての最新の情報を専門家の手で分かりやすくまとめた指針であり、ガイドライン、ガイド、指針とも呼ばれ、「最良の研究によるエビデンス」の集約です。それに少し独自の臨床の考え方を加えることにより、日常臨床は成り立っていると考えられています。

また、推奨グレードとエビデンスレベル勧告の強さのグレード分類 (Mind 推奨グレード案) は行うよう強く勧められるレベルAから、行わないように強く勧められるEまでレベルA、B、C1、C2、D、Eま

での5段階に分かれています。

診療ガイドラインを背景とした実際の医療として当院での(1)消化管出血に対する内視鏡的治療、(2)H. pylori除菌治療、(3)炎症性腸疾患としての潰瘍性大腸炎の治療経過を示します。

(1) 消化管出血
グレードA推奨の治療を根拠に当院ではエタノール局注とクリッピングを中心とした内視鏡的止血処置を行っています。その結果最終止血率97.2%というかなり高い確率で止血が得られています(図1)。

(2) H. pylori除菌治療
当院の特徴として

①潰瘍からの出血がなくなったら開始 (HI stage k)
②年齢に関係なく適応が広い (幼児から高齢者まで)

③除菌治療は1週間でH2 blockerで初期併症の予防→通常二次除菌まで

④潰瘍難治例は培養・感受性→三次除菌まで行うこととして

全症例273例(男性・女性169例・104例)で一次除菌成功233例、失敗40例(成功率82.8%)、二次除菌40例中37例成功(成功率92.5%)、三次除菌3例中1例成功で全体の成功率99.2%と非常に高い確率で除菌に成功しています。また、70歳を境に除菌成功率を比べると70歳未満が89.3%であるのに比して、70歳以上が79.0%と有意差をもって70歳未満の除菌率が高い結果が得られています。

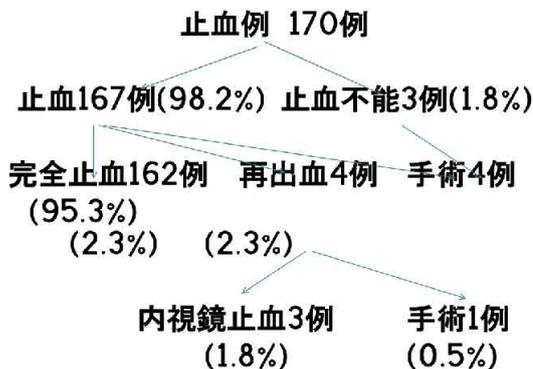
(3) 潰瘍性大腸炎について

潰瘍性大腸炎の治療指針2006年版に基づく治療を行っています。特徴として①5-ASA製剤がSASPの最大量投与

②ステロイド中等量投与(1mg/kgBW)
③抗菌剤(※AMOX+TC+MNZ) ④外来あるいは入院にて吸着療法(※GCAPor L-CAP)などを行っています。ステロイド依存性の場合には手術も考慮しています。吸着療法は5例中著明改善1例、やや改善2例、不変2例でしたが、長期経過で重症化が防げました。抗菌療法では45例中32例改善(71%)、10例再発(22%)と比較的良好な結果でステロイド治療に移行する前、あるいは5-ASA製剤から終了の際に用いると良好な結果が得られました。当院ではこれからもガイドラインに基づく治療を行いながら、独自の患者さんそれぞれに応じた治療法を考えた治療の開発を行っていきたく思っています。

当院の胃潰瘍に対する止血成績

(2007年10月~2012年10月)



NHO Matsumoto Medical Center

図1

第3回まつもと医療センター登録医大会 講演要約

変形性関節症の治療



整形外科医長
わかばやし しんじ
若林 真司

変形性関節症は関節軟骨の変性（老化）とすり減りによる関節破壊を特徴とする疾患です。関節軟骨の変性は20代過ぎに始まり、膝関節などの荷重関節では60歳を過ぎると70%前後の人に起こっているといわれています。

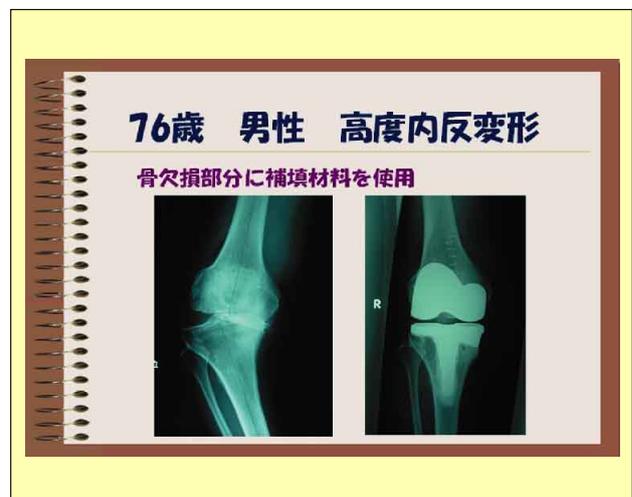
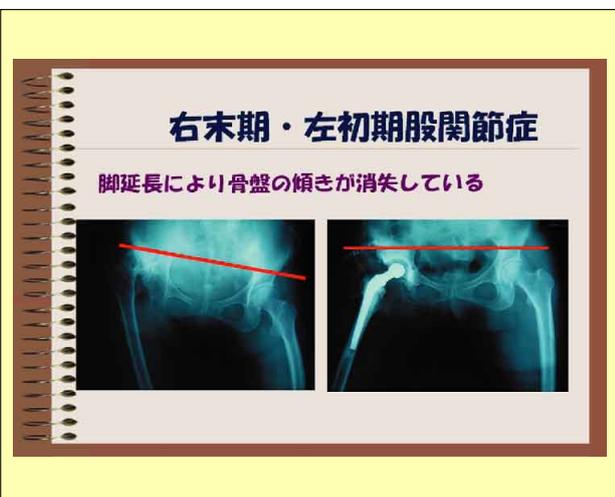
診断にはレントゲン写真が有効で、いずれの関節においても関節裂隙（すきま）が狭くなったり骨棘（骨の棘）形成といった特徴的な所見を認めます。

股関節症では前期、初期、進行期、末期と4段階の病期に分類されます。治療にあたってはこれらの病期が参考になります。保存的治療はいずれの病期にも適応がありますが実際には進行期や末期の股関節症には有効とはいえないかもしれません。体重のコントロールや杖の使用、鎮痛剤の使用などに加え、運動療法が勧められます。横向きまたはうつ伏せになって脚を上げる股筋の筋力訓練や伸びなくなったり開かなくなったりした股関節のストレッチングが疼痛の緩和に役立ちます。手術的治療では関節を生かす寛骨臼回転骨切り術や関節を人工物に置き換

える人工関節置換術の2つが代表的な方法です。病気の進行度や患者さんの年齢、職業などを考慮した上で適応が決まります。人工関節置換術は疼痛の緩和以外にも脚長をそろえることが出来る点で優れた方法かと思えます。

膝関節症の患者さんは全国で1,200万人いると言われています。膝関節症では病気の進行度が5段階に分類されます。保存的治療は股関節と同様ですが、運動療法としては仰向けまたは椅子に座って脚を上げる大腿四頭筋の筋力訓練や伸びなくなった膝関節のストレッチングが勧められます。関節内のヒアルロン酸の注射も鎮痛効果や軟骨保護作用があるといわれ有効な方法です。手術的治療では関節鏡手術、下肢の荷重軸を変える骨切り術、人工関節置換術が行われます。これらの方法も股関節同様、病気の進行度や患者さんの年齢、職業などを考慮した上で適応が決まります。

人工関節の手術件数は全国的に見ますとこの10年で2倍に増えていきます。平成22年度の統計によると股関節40,000例、膝関節70,000例程の手術が行われているとされています。今後ますますの高齢化により手術件数は増えていくものと思われます。当院でも人工関節を行っており1日でも長く痛みのない生活を送っていただけるようお役に立ちたいと思っております。



第66回国立病院総合医学会で報告

11月16日(金)～17日(土)の2日間、神戸において第66回国立病院総合医学会が開催されました。センターからは1題の口演発表17題のポスター発表が行われ、3題がベストポスター賞を受賞しました。



松本病院

「患者の特性に応じた転倒・転落要因の同定に基づくアセスメントシートの改良(第一報)」(口演)

松本病院医療安全管理室 丸山和子
弘前病院医療安全管理室 坂本浩志

中信松本病院医療安全管理室 石井優子

長良医療センター医療安全管理室 石原敬子

舞鶴医療センター医療安全管理室 村井紀子

徳島病院医療安全管理室 佐藤由美

長崎医療センター医療安全管理室 佐々木真由美

「看護師の関わりとチーム医療の重要性」(腫部の重度褥瘡が改善方向となった一例より)」
看護部(3A病棟) 梅本かおり

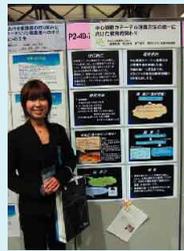
「看護援助に対する患者の思いを知る」(女性看護師・男性看護師の役割とは)」
看護部(3A病棟) 富永啓介、両角隆幸、梅本かおり、穂高瑞佳

「中心静脈カテーテル消毒方法の統一にむけた教育的関わり」
看護部(4A病棟) 滝澤夏美、水口歩美、倉下澄子、田辺サエ子

「拡張型βラクターマーゼ産生菌分離用培地『クロモアガーESB』の基礎的検討」
臨床検査科 青木悠太郎、菊池寿美子

「がんの治療方針の選択過程におけるソーシャルワーカーの役割」
相談支援センター 小林和代

「がんの治療方針の選択過程におけるソーシャルワーカーの役割」
相談支援センター 長谷川直子、
外科 松村任泰、小池祥一郎



中信松本病院

「摂食障害の患者。家族との関わり」(患者の思いを知り、患者と向き合うことの大切さ)」
看護部(1病棟) 宮下優維

「広汎性発達障害(PDD)をもつ小児との関わり」(患者自身を理解すること)」
看護部(1病棟) 小笠原史恵

「DOTSアセスメントシートの検討」(退院支援につながる患者指導を目指して)」
看護部(2病棟) 中島 恵、青柳春佳、秋山和枝

「薬物誘発性筋肉増殖症に対する症状改善に向けて」(電動歯ブラシを使用したブラッシング効果の実験)」
看護部(3病棟) 櫻庭直人、斉藤久美子、上條由日里、筒井晶子、池内彩香、伊藤匠

「重症心身障がい児者病棟における食事介助者の抱える思い」(食事介助者の不安軽減への取り組み)」
看護部(4病棟) 宇佐美英行、高木健太

「人工呼吸器の危機管理対策」(気管カニューレとシ字コネクタ接続部外れ防止) シューレースロックを用いた固定法を継続使用して」
看護部(7病棟) 足立秀幸、宮下優大、松田浩子

「療養介助員活動報告」(タッチケアによるスタッフの意識向上)」
看護部(7病棟介助員) 寺田美郷、永井良佳
看護部(7病棟看護師) 松田浩子

「患者の特性に応じた転倒・転落要因の同定に基づくアセスメントシートの改良(第3報)」(亜急性期・回復期の患者の転倒・転落要因)」
中信松本病院医療安全管理室 丸山和子
松本病院医療安全管理室 坂本浩志

「慢性入院児の疾患の変遷にあわせて小児科病棟での生活ルールの検討」(児童指導員の立場から)」
療育指導室 宮沢春奈
小児科 山田慎二
看護部 池谷みちこ

「閉鎖型βラクターマーゼ産生菌分離用培地『クロモアガーESB』の基礎的検討」
放射線科 石川力也、森 貴之、大村貴弘、杉田 正、三浦 純、浅原邦彦、滝澤秀喜、越原 浩

「結核患者の地域DOTSへの連携」(退院調整看護師としての役割)」
地域医療連携室 黒田百合、植竹日奈、長谷川直子、大原慎司
看護部(2病棟) 青柳春佳、秋山和枝

「病状進行に伴う混乱状況へのソーシャルワーク援助」(自宅訪問) (アウトリーチ) による危機介入」
相談支援センター 植竹日奈、長谷川直子、黒田百合
神経内科 腰原啓史、武井洋一、小口賢哉、大原慎司

「病状進行に伴う混乱状況へのソーシャルワーク援助」(自宅訪問) (アウトリーチ) による危機介入」
相談支援センター 植竹日奈、長谷川直子、黒田百合
神経内科 腰原啓史、武井洋一、小口賢哉、大原慎司



ベストポスター賞

気管カニューレとL字コネクタ

接続部外れ防止への取り組み
〜シューレースロックを用いた
固定法を継続使用して〜

7病棟 看護師 足立 秀幸

神経難病患者さんを対象とする当病棟では、1日平均20台の人工呼吸器が稼働しており、人工呼吸器に関するインシデント発生リスクは高いといえます。H21年以降より、気管カニューレとカテーテルマウントを、固定用バンド・シューレースロックの使用により固定するという方法を用いてきました。この3年間の人工呼吸器使用患者さんのシューレースロック使用の有無と、インシデント発生状況を比較した結果、シューレースロック使用患者さん対使用患者さん（50対1）で、インシデントは未使用患者さんのみ発生していました。又、3年間の使用において肺挫傷等の問題も発生しませんでした。従って、シューレースロックを用いた固定法は当病棟において気管カニューレとL字カテーテルマウントの脱抜防止に有効と考えられます。

慢性入院患児の疾患の変遷に

あわせた小児科病棟での
生活ルールの検討
〜児童指導員の立場から〜

療育指導室 宮沢 春奈

ここ数年、当病棟では身体疾患から急速に発達障害、心身症等を主訴とし不登校であるケースが増加し、その中で病棟全体のルールでは対応が困難となり、まず状態にあわせ、患児が受け入れられるルールを作ることで病棟生活に慣れてもらう取り組みをしています。児童指導員の役割として、入院する際の病棟案内で、患児、保護者から家庭での様子や要望、不安などを聞き、個別のルールの作成により患児が安定した入院生活を送れるよう多職種間へ情報を提供、また検討をすることで各患児が安定した生活を送れるようになってきました。今後も児童指導員として家族、多職種へのパイプ役、代弁者としての機能を発揮していけるよう検討していきたいです。

薬物誘発性歯肉増殖症に対する

症状改善に向けて
電動歯ブラシを使用した
ブラッシング効果の実際

3病棟 看護師 櫻庭 直人
3病棟 療養介助員 伊藤 匠

重症心身障がい児（者）にとって「食べられる」という大きな楽しみを守るため、口腔ケア班を中心に健康な口腔状態を保つための取り組みを行っています。今回でんかんの治療薬の副作用である薬物誘発性歯肉増殖症に着目し、症状改善に対し電動歯ブラシを活用することで、ブラークコントロールを良好に保つ取り組みを行いました。症状が強い2名の患者に対し、事前に行ったPCRの結果に基づき、磨きの効率の良いケアを実施しました。歯科医師により出血、歯周ポケット、歯肉の腫脹の評価を行い手用歯ブラシ実施時との比較を行った結果2ヶ月の短期間で改善がみられました。この研究を通して電動歯ブラシの有効性を明らかにすることができたと考えられます。



病院祭を開催いたしました



まつもと医療センターでは、地域の方々により病院を身近に感じていただくことを目的として松本病院と中信松本病院交互に病院祭を開催しております。

4回目を迎えた本年度は松本病院の地に新病棟建設も決まり、一体化新生まつもと医療センターの発足に向け地域へのアピールも一段と力が入りました。

10月27日の病院祭当日は、遠くに早くも雪を纏った北アルプスを正面に望む中信松本病院で開催されました。多数の催し物のなかでも無量寺住職青山俊薫先生の「今ここをどう生きる」と題した講演には沢山の方々が熱心に聞き入っています。



げんすけとアルプちゃん

した。もちろん職員主催の健康相談やこども広場、転倒防止体操等老若男女が楽しめる企画が盛りだくさんで来院された方々からは笑顔が溢れていました。

まつもと医療センターでは現在新病棟建設に向け経営改善が迫られている重要な局面を迎えています。今回の病院祭により、多くの職員が参加してより一層「絆」を深めることができました。最後になりましたが、今後も地域の方々に愛される病院として職員一同頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。

経営企画室長

岩垂 いわだれ

朋昭 ともあき



健康相談コーナー



青山俊薫先生の講演

リレー形式

最近の診療トピックス(24)

補聴器の新しい知見

難聴には耳介から入った音を伝える鼓膜・耳小骨に障害があつて生じる伝音難聴と、内耳から神経・脳の障害で生じる感音難聴がある。伝音難聴は手術により聴力改善が見込める。感音難聴は急性の場合には聴力が改善する可能性がある。一方、加齢難聴に代表される慢性の感音難聴は投薬などの治療による聴力改善は見込めない。今日、非常に高度の感音難聴者では人工内耳の適応となる場合がある。中々高度までの感音難聴者で会話理解が困難な場合には、現状の聴覚を最大限に生かすために補聴器の装着を考へる必要がある。

補聴器の進歩はめざましく、アナログからデジタルの補聴器が主体となつている(2006年度の補聴器販売協会の調べでは補聴器販売台数の83%以上がデジタル補聴器)。

以下、デジタル補聴器の新しい点について2~3述べたい。

1. 雑音への対策

補聴器を装着した時の不満として多い訴えは「雑音がうるさい」ことである。デジタル補聴器では入

力された音信号を多くの周波数帯域に分けて個別に増幅度を設定できる。このため音信号を雑音と音声に分離して音声信号のみの出力が可能である。また補聴器に入力される前に雑音を抑え、会話の音源方向の感度を上げる多重マイクによる指向性機能を持つ機種も出ている。

2. オープンフィッティング

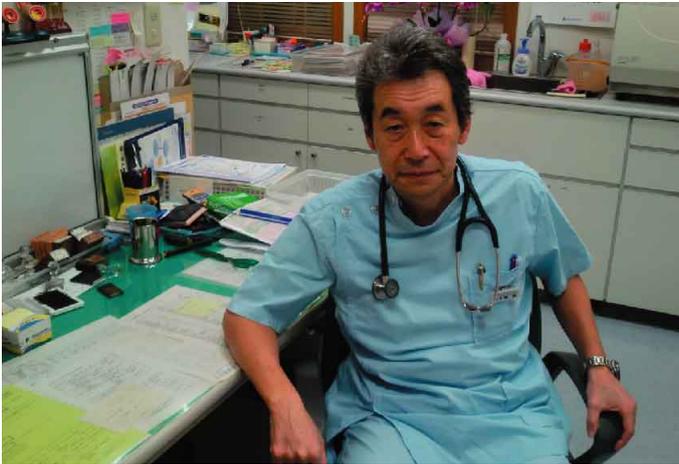
従来の補聴器を装着すると外耳道が塞がれるので、こもり感などの不快感が生じる。デジタル補聴器ではハウリング現象(耳栓・イヤモールドと外耳道との隙間があるとピーと音がする)への対策が可能となり、外耳道を閉鎖せずに(オープン)に補聴器を装着(フィッティング)出来る。ハウリング抑制機構により大きな穴を開けた耳栓などを使えるため、外耳道内の共鳴音がこもらずに外部からの音も直に鼓膜面に達し、自然な装用感が得られる。さらにオープンフィッティングの技術と補聴器本体の小型化とが結びつき、耳掛け型でも従来の耳あな型より目立たない機種が登場している。

耳鼻咽喉科医長

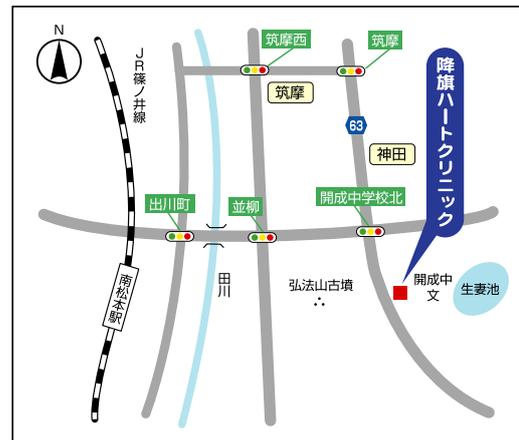
後藤 昭信
ごとう しょうしん
あきのぶ



降旗ハートクリニック紹介



ふりはた やすたか
降旗 康敬 先生



〒390-0823 長野県松本市中山951-1
TEL(0263)29-2230

診療時間

時間／曜日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○	○	○	×	○	×

* 休診日／木曜午後・土曜午後・日曜日・祝日

『まつもと医療センター』松本病院を退職し、中山下和泉、和泉川のほとり、弘法山の麓に循環器疾患を中心とした内科クリニックを開業して早くも11年が経過しようとしています。夜になると時々野生動物が出没する寂しい所ですが、季節の移ろいを感じられ最近ではとても満足しています。開業医として日々の診療に携わっていると、専門領域だけでなく、医療全般にわたる幅広い知識の必要性が痛感させられます。また臨床現場の第一線から離れて10年にもなりますと、専門領域はともかく、自分の勉強不足を自覚するようになりました。そのなかで病診連携の一環として企画されている、まつもと医療センター登録医大会は他科の第一線の先生のお話、情報に触れることができとても勉強になります。今後は

せっかく企画していただいている定期的な症例検討会にもズクをだして参加したいと考えています。日々の診療、患者さんの紹介を通して、松本病院、中信松本病院、両院の総合的な診療能力の高さには敬服いたします。先日も高齢女性で胸痛があり貧血の患者さんを紹介したところ多発性骨髄腫との御返事をいただきました。循環器医としては青天の霹靂でした。また心不全の終末期の患者さん、癌末期の患者さんも快く引き受けていただき頭が下がる思いです。この紙面をお借りして深謝申し上げます。さていよいよ新病院の完成ですね。充実した機能とスタッフを有する両院が統合するので診療はもちろん、病診連携でもさらに期待しています。今後ともよろしくお願い致します。

第34回心筋生検研究会

11月23日・24日



第34回心筋生検研究会を主催させていただきました。この研究会は、心臓の筋肉の病気（心筋症）に対する病理形態学的研究はもとより、広く循環器疾患の病因・病態の解明および新たな診断・治療法の開発を目的として、1979年（昭和54年）より毎年開催している伝統ある学術研究会であります。前々回（32回）は慶応大学で、前回（33回）は京都大学で開催され、今年は私が信州大学の応援のもとに開催させていただきました。心不全や心筋症を扱う循環器臨床医、病理医、基礎研究者が集まり、分子レベルでの基礎的研究から日常診療で遭遇する症例の臨床病理学的研究に関する発表まで幅広く活発な討論の場となりました。北は旭川から南は沖縄まで日本全国から過去最多の演題応募

があり、1日目は140人、2日目は100人を超える多くの参加者がありました。特別講演は信州大学循環器内科池田宇一教授に座長の労をおとりいただき、名古屋大学循環器内科室原豊明教授に血管再生医療の最新の知見についてご講演いただきました。当院からも病理の遠藤真紀先生がアミロイドーシスに関する研究報告をされ、中澤功先生が教育講演の座長をされました。今年話題になった寸の細胞を用いた研究報告が信州大学から行われ、臨床応用への期待が高まりました。この研究会を盛会のうちに終了できたことは、松本病院関係者のご理解・ご協力の賜物と、この場をおかりしてお礼申し上げます。

循環器科部長
矢崎 善一
やさしき よしかず



車座健康講座

12月2日

この度、松原地区の皆さんから依頼のあった「健康的でうつくしく」のテーマで、地区公民館において開催しました。当院で私が行っている腹部超音波検査、肝疾患診療の紹介から話を始めました。腹部超音波検査は被曝が無く、痛くない検査で、多くの情報が得られることを、当院で経験した実際の写真をお示しすることにより、身近に理解していただくことができましたと思います。後半は、食事・運動に注意することにより、肥満や糖尿病、高血圧、脂質異常症を改善し、脳や心臓の血管障害の発症率を引き下げることが出来るだけでなく、ガンを発症するリスクも下げることが出来ることをお話しました。話の途中に、当院オリジナルの「ころばんソウ体操」を「信濃の国」に合わせて立位と座位の両方のバージョンにて参加者全員で実演しました。

このような講演会を、皆さんの地区でも開催してほしいとのご希望がありましたら、地域連携室へご連絡いただければ、喜んで対応したいと思っております。



統括診療部長
古田 清
ふるた きよし

メンタルヘルス講演会 12月6日

近年、職場での心の健康づくり（メンタルヘルスケア）の重要性が指摘されています。今回、心の健康づくり年間計画の一環として、株式会社セイコーエプソン広島事業所で長年わたり産業医として、従業員4,000人のメンタルヘルスケアに関わってこられた小木曾先生の講演会を全職員対象に開催いたしました。講演では医療職、事務職などすべての職員が健康な心で医療提供するための心の健康に関するさまざまな知識を学ぶことができました。当センターでは職員ひとりひとりが気楽にメンタルヘルスの相談ができるような職場の環境づくりをめざし、昨年11月から月1回「心の健康相談室」を開設しています。今回の講演を踏まえて、今後も職員のメンタルヘルスを守ることでより良い医療を提供できる環境を心がけていきたいと思っております。



小木曾 俊 先生

職員班長
樋口 睦男

療養介護事業「ひだまり」クリスマス会 12月13日



療養介護事業「ひだまり」には、高度な医療処置が必要な方や長期臥床の方が入所されています。「ひだまり」はそのような方たちの医療の場であると同時に生活の場でもあるので、十分な医療と福祉のサービスを提供することで安心してより豊かな生活ができる環境づくりに取り組んでいます。そのひとつとして長期臥床状態であっても季節感を感じてもらえるよう季節ご

7病棟「ひだまり」職員一同



との行事をレクリエーションとして取り入れています。クリスマス会では、医師によるピアノの演奏と合唱、看護師と療養介助員のダンス、リハビリスタッフによる切り絵など職員の普段見られない一面も見られて、患者さんやご家族にとっても楽しんでいただけました。これからも患者さんの「笑顔」を増やしていくために一緒に楽しめるレクリエーションを企画運営していきたいと考えています。次は節分の豆まきの予定です。

医療安全推進月間の取り組み

11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間は「医療安全推進週間」と呼ばれ、その週間を含む11月を「医療安全推進月間」とし、毎年医療安全に向けての取り組みを行っています。

「患者さんと共に」と題し、医療安全に関するメッセージポスターを各部署で作成し1階外来廊下に展示しました。14部署ポスターの内、GOODポスターを1つ選ぶ投票を行い全部で261票が集まりました。「いつも隣に危険があるのを気付かされた」「患者をよく見てくれる」「勉強になった」などの貴重なコメントが書き込まれた72票は患者さんからいただき、投票の結果、上位3部署はリハビリ科、3A病棟、4A病棟となりました。ご協力ありがとうございました。また「信濃の国」を歌いながら座ることができる転倒・転落防止体操は「転ばんゾウダンサーズ」の解説つき実演で2回行い、とても好評でした。



<投票第1位 リハビリ科ポスター>



<転倒防止体操>



<1階 ポスター展示の様子>

医療安全管理係長
松本病院
丸山 和子

中信松本病院では、「患者さんやご家族にも医療安全推進月間を知ってもらい協力してもらおう!」をテーマに、お名前確認や誤薬防止、転倒転落防止等の活動に取り組みました。推進月間を伝えるポスターは、各部署のアイデア満載で華やかなポスターが廊下に張り出され、「ポスター、見たよ。」や「こんな取り組みしているのね。」と患者さんより声をかけて頂きました。結果は、12月12日の院内発表会で報告をしました。どの部署も昨年より分かりやすく職員に伝わる内容でした。今回、取り組んだ内容を継続し、これからも安全な医療を提供できるよう職員一同、取り組みで参ります。

最優秀賞



「治療スケジュールを厳守しよう」 治療管理室

優秀賞



「薬の間違い0を目指す」 薬局



「転倒転落 患者さんと共に予防しよう」 5病棟



「部位確認!フルネーム確認!!」 放射線科

医療安全管理係長
中信松本病院
石井 優子

解剖慰霊祭のご報告



まつもと医療センターの解剖慰霊祭が10月18日に行われました。

多数のご遺族と病院職員が出席し、この2年間に病理解剖をお許しいただいた25名の方々に対し、ご冥福をお祈りするとともに改めて感謝の意を表しました。病理解剖によって診療の検証を続けていることが、当センターの医師が高い診断能力を持ち、病院として質の高い医療を提供できている大きな要因であると思います。他の施設の慰霊祭とは異なり、当センターの慰霊祭では担当医がご遺族の方々に直接解剖結果についてご説明しています。少し時間をおいて、改めて当時の状況や新たに明らかになった病態についてご説明申し上げることは、ご遺族の方からの希望も多く大変意義深いことだと思います。



医療情報管理部長 中澤 功

お知らせ

松本病院

新任医師紹介



循環器科

越川 めぐみ
こしかわ

平成8年卒

専門

循環器内科

所属学会資格

- ・日本内科学会
- ・日本循環器学会
- ・日本脈管学会
- ・日本心臓病学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本心血管インター
- ・ベンシヨン治療学会
- ・日本輸血細胞治療学会
- ・医学博士
- ・認定内科医
- ・循環器専門医
- ・脈管専門医

東京出身ですが、大学で信州に来て人生の半分以上を信州で過ごしています。医師として地域の皆様に喜ばれるような医療を提供していきたいと思っています。よろしくお願いたします。

中信松本病院

在宅医療研究会

地域で在宅医療に関わる診療所の先生、訪問看護師、ケアマネージャー、ヘルパーなどのみなさん、参加をお待ちしています。

日時 / 1月24日(木)

場所 / 中信松本病院 第一会議室

テーマ / 口腔ケア

講師 / 筑摩あんしん館さわやか健康教室
歯科衛生士 麻和 和泉さん

※参加者は歯ブラシをお持ち下さい。



まつもと医療センター

第18号 平成25年1月15日発行
発行人 院長 北野 喜良

松本病院

〒399-8701 長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183

中信松本病院

〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190

<http://mmccenta.jp/>



編集後記

今年の干支は執念深いと言われる蛇(巳)ですが、恩も忘れず、助けてくれた人には恩返しを行うと言われています。私たちも地域の皆様から受けた恩を忘れず、地域医療に貢献して行きたいと思えます。